

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立神埼清明高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 育成を目指す資質・能力のシラバスへの明記、公開授業リストの作成と配布、研究授業報告書の共有、授業アンケートによる資質・能力の育成状況の把握と分析などにより、授業改善と教科等横断的なカリキュラムマネジメントを推進することができた。 ○ 10の「清明力」のうち、半数以上が高まったと自己評価する生徒の割合が61%となり、多くの生徒が自分の成長を感じることができた。 ○ 授業及び系列選択の満足度が90%を超え、基礎学力と専門的な知識・技能を育成する授業、意欲を高め進路実現を目指す各系列の教育活動にほとんどの生徒が目標を持って真剣に取り組んだ。

2 学校教育目標	<p>教育指針 「はずむ生命 ひかる生命 ～君と生きるために～」</p> <p>めざす生徒像 「より良き人生を送るために、学び、考え、挑戦する生徒」 ⇒「清明力」の育成 主体性・思考力・創造力・計画力・実行力</p> <p>「より良き社会を創るために、自他を尊重し、協働する生徒」 ⇒「清明力」の育成 自己肯定力・寛容性・規律性・対話力・発信力</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>① 生徒が主体的に学び、考える授業を目指す。 ② 生徒が自分の夢や目標に向けて挑戦するキャリア教育に取り組む。</p> <p>③ 社会人として必要なマナー、モラルを育成する。 ④ 豊かな心を育む教育の充実を図る。</p> <p>⑤ 総合学科の特色を活かしたカリキュラムを構築する。 ⑥ 学校における働き方改革を推進する。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価		主な担当者		
重点取組			具体的取組	最終評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	学校関係者評価			
					評価	意見や提言		
●学力の向上	○授業の充実、改善	○生徒が「学び」、「考え」、「挑戦する」授業を目指して、生徒の授業満足度を80%以上とする。	・各学期に1回の公開授業週間を設定し、教員が指導方法を学び、考える機会とする。 ・各教科で1回以上の研究授業を実施し、授業の工夫・改善を促進する。	B	・生徒の授業満足度は94%であった。 ・各学期に1回の公開授業週間を設定し、相互の授業参観により授業の工夫・改善に取り組んだ。 ・2学期に各教科・系列で研究授業を行い、参観者の意見・感想をまとめた報告書を全職員で共有した。	A	・授業満足度の目標である80%を大幅に上回っており、しっかりと取り組みが行われている。	各教科主任 各系列主任
	○「基礎力診断テスト」の活用による学力の向上	○GTZ(学習到達ゾーン)のA・Bの生徒数が昨年度より増加し、D3の生徒数が昨年度より減少する。	・年3回実施する「基礎力診断テスト」のGTZ(学習到達ゾーン)別分布や上位者一覧を作成し、昨年度や同年の前回との差を全職員で共有し、生徒の学力向上に努める。	B	・年3回(3月、9月、12月)実施の「基礎力診断テスト」の成績概評を職員会議で情報共有した。 ・12月の最終実施分のGTZ(学習到達ゾーン)分布は、D3の生徒数を1つ上の学年と比較すると、2年生は全科目で増え、1年生は全科目で減った。 ・教科担当者だけでなく、全職員の共通認識のもと、あらゆる活動を通して指導を行う必要がある。	B	・学習到達ゾーンのD3の生徒減という目標は学年によっては達成できていないが、全体評価としては概ね達成である。	進路指導主事 各教科主任 各学年主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○より良き社会を創るために自他を尊重し、協働する「清明力」の5つの資質・能力のうち、3つ以上の項目が高まったと自己評価する生徒の割合を60%以上とする。	・人権教育に関する講演会を実施する。 ・授業や講演会で情報モラル教育を行う。 ・道徳教育の全体計画に基づいて授業を行う。	B	・「清明力」が3つ以上高まった(最高評価維持を含む)と自己評価する生徒の割合は44%であった。 ・人権教育講演会を電子黒板を用いて実施し、異文化理解、多文化共生について理解を深めた。 ・LHRでネットトラブルの危険性について授業を実施し、注意喚起を行った。 ・各教科で道徳教育全体計画に基づいた授業を実施した。	B	・「清明力」が3つ以上高まったと自己評価する生徒が44%もいたことは評価できる。 ・目標値60%という設定は高すぎるのではないかと感じる。	人権教育担当者 情報モラル教育担当者 道徳教育担当者 各系列主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止(いじめの定義、いじめ防止の取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員の割合を90%以上とする。	・生徒の様子を常に観察し、小さな兆候も見逃さない。 ・いじめアンケートを年2回以上実施する。 ・学年、系列の縦・横の情報共有を密にし、教育相談との連携を図る。	B	・認知件数は11件、解消7件、観察指導中4件であった。昨年度より増加したが、重大事案はなく、早期の発見・指導・解決ができた。 ・90%以上の職員がいじめ防止について組織的対応ができていると回答した。 ・学年、系列、校務分掌での情報共有ができた。	B	・認知件数が増え、重大事案に致る前に指導・解決ができていることは評価できる。 ・認知の判断基準を下げた上で、認知件数が減ることが、真にいじめが減ることだと思われる。	生徒指導主事 各学年主任
●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故を0(ゼロ)とする。	・以下の取組を職員、生徒会、福祉研究部で行う。 登校時の交通安全指導、自転車街頭指導、駐輪場の整理、鍵かけ運動、交通委員会活動の充実		B	・目標の件数ゼロにはできなかったが、大きな怪我となる事故はなかった。 ・生徒会、福祉研究部に協力してもらったことで、生徒に当事者意識を持たせることができた。さらに、全生徒の安全意識の向上に繋がった。	B	・事故原因が生徒側にはないということから、取り組みが行き届いていると思われる。 ・事故件数の目標がゼロであるため、達成度は概ね達成となる。	生徒指導主事 各学年主任

●健康・体づくり	○健康に関する自己管理能力の育成	○自分が健康だと感じている生徒の割合を90%以上とする。	・健康診断後、受診勧告書を渡す際に、面談を実施し受診を促す。 ・スクールカウンセラーとの連携を図り、心の健康状態の改善に努める。 ・健康観察や手洗いの指導、教室の換気を行い、感染症の予防対策を行う。	A	・自分が健康である「とても思う」が49.3%、「まあまあ思う」が43.3%で、自分が健康だと感じる生徒の割合は92.6%であった。 ・健康に関して以前より自己管理ができるようになったと感じる生徒の割合も92.5%であった。 ・換気や消毒、手洗いなどの感染症対策を意識をもって実行できた。 ・心身の健康に不安のある生徒の個別対抗を十分にを行い、健康の保持・増進に努めた。	・健康に関する自己管理ができるようになったと感じる生徒の割合92.5%は素晴らしい成果である。 保健主事 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定する。 ・部活動休養日を設定する。 ・学校閉庁日を設定する。 ・業務削減(縮減)を検討・実行する。	B	・時間外勤務が昨年度より5%減少した。 ・定時退勤日、部活動休養日、学校閉庁日の設定を計画どおりに行った。 ・年休取得を推進し、殆どの職員の取得日数が増加した。 ・業務の削減(縮減)は具体的な検討・実行ができなかった。	・業務の削減(縮減)の具体策の実行ができなかったという点で、目標は達成できなかった。 ・部活動の外部指導員導入などが進まない限り、教職員の多忙さは簡単には改善されない。 管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
○進路指導	○進路希望の実現	○第一志望の大学・短大・専門学校への合格率100%を目指す。 ○就職内定率100%を目指す。	・生徒の希望、適性を踏まえ、受験指導、面接指導の充実を図る。 ・進路検討委員会を充実させ、生徒にとってより良い進路を職員で検討し、指導を行う。	A	・希望生徒の進学率100%、第一志望校の合格率99%であった。 ・就職内定率100%を達成した。 ・進路検討委員会等で進路の検討と職員間の情報共有を行い、より良い進路が実現できるよう、指導とサポートを行った。 ・企業、大学、短大、専門学校と情報交換を密に行った。	A	・高校入学後に自分の将来を考え、卒業後の進路を決める生徒が多い中、希望する進路の達成率100%は素晴らしい結果である。 ・志望校だけではなく、志望分野も進路達成度の観点に加えてはどうか。	進路指導主事 3年学年主任、担任 各系列主任
◎総合学科の特色を活かしたカリキュラムの構築	◎1年次:職業観の育成による進路を見据えた系列の選択 ◎2年次:系列の特色を活かした地域との交流及び外部機関等との連携 ◎3年次:系列の学びの集大成としての課題研究の充実	◎自分の「系列選択」に満足する生徒の割合を80%以上とする。 ◎「清明力」の10の資質・能力のうち、5つ以上の項目が高まったと自己評価する生徒の割合を60%以上とする。	・1年次は明確で高い将来の目標「ライフプラン」を考え、作成する。系列の説明と体験授業、職業に関する進路ガイダンス、進路見学会、探求活動を実施する。 ・2年次は地域交流や外部機関等と連携した清明プログラム(インターンシップとの相乗効果を図る)を実施する。 ・3年次は系列の学びを深め、集大成としての課題研究を実施し、中間報告会、総合学科発表会で成果を発表する。	B	・「系列選択」に満足する生徒の割合は96%であった。 ・「働くことの意義」について考えることができた生徒は、1年生99.3%、2年生95.5%、3年生94.9%であった。 ・「将来の自分の進路」について考えることができた生徒は、1年生99.3%、2年生93.5%、3年生99.3%であった。 ・「清明力」が5つ以上高まった(最高評価維持を含む)と自己評価する生徒の割合は48%であった。 ・1年次は進路ガイダンス、進路見学会、探究活動を対面やオンラインで実施した。 ・2年次は神埼市の協力を得て地域課題解決のための調査・研究を行い、中間発表会と解決策提案の発表会を行った。インターンシップは実施できなかった。 ・3年次は課題研究の中間発表会を実施した。満足する生徒の割合は90%であった。 ・1月に総合学科発表会(ライブ配信)で成果発表を行った。他校とのオンライン交流や発表会への参加意欲と達成感・満足感・幸福感を高める試みを行い、満足する生徒の割合は90%であった。	A	・系列選択の満足度、働くことの意義や自分の進路について考える生徒の割合は非常に高い。 ・目指す資質・能力が半数以上高まったと自己評価する生徒の割合も高い。 ・教育活動の充実・発展のために新たな取り組みの実践・検証を行うなど、総合学科の特色を活かしたカリキュラムの構築は確実に進んでいる。	企画研修主任 各系列主任 各教科主任 各学年主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>○ 総合学科の特色を活かしたカリキュラムの構築については、今年度も新たな取り組みを行い、その成果と課題を検証し、今後の教育活動の充実・発展につなげることができた。</p> <p>○ 10の「清明力」のうち、半数以上が高まったと自己評価する生徒の割合は48%となり、昨年度に成長を感じた生徒が今年度さらに成長を遂げることができた。</p> <p>○ 授業及び系列選択の満足度は90%を超えた。また、働くことの意義と自分の進路について考える生徒の割合も90%を超え、特に1年生は99.3%となり、「産業社会と人間」におけるキャリア教育は充実したものであった。2,3年生は探究活動により進路実現と社会貢献の意欲を高めることができた。</p> <p>○ 基礎学力の向上、自己実現及び進路実現のためのキャリア教育の充実、体験的・探究的教育活動の充実、地域との交流・連携活動の進化・発展について、今年度の成果と課題を踏まえて更に取組を進めていく。</p>
----------------	--